

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3148475号
(U3148475)

(45) 発行日 平成21年2月19日(2009.2.19)

(24) 登録日 平成21年1月28日(2009.1.28)

(51) Int.Cl.

A 6 3 B 69/00 (2006.01)

F 1

A 6 3 B 69/00 5 0 5 P

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6916 (U2008-6916)

(22) 出願日 平成20年9月2日(2008.9.2)

(73) 実用新案権者 503366195

小西 稔

広島県安芸郡府中町桜ヶ丘15番2号

(72) 考案者 小西 稔

広島県安芸郡府中町桜ヶ丘15番2号

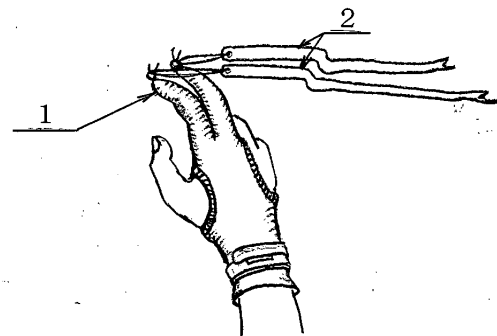
(54) 【考案の名称】 指先でボールを押込む投球訓練用シャドウピッチング用具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 ボールを持たずに投球動作を練習するとき、足、腰、肩、肘、手首と共に指先でのボールの押込み力の強化鍛錬練習ができるシャドウピッチング用具を提供する。

【解決手段】 手袋の先端部に帯状のリボンを取付け、投球動作を繰り返す毎に該リボンが靡き、投球練習にリズム感をもって、足、腰、肩、腕、肘、手首、と指先での押込み効果を確認しながら、練習することを可能にしたことを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

の考案は、野球（ソフトボールも含む）のシャドウピッチング（ボールを持たないで行う投球動作）の練習用具であって、投球する時の利き腕側の手にはめる手袋で、該手袋の先端部分に帯状のリボンを取付けて投球動作を繰返すことにより、前記手袋の先端部に取付けたリボンがなびき、投球時に指先でボールを押込み加速を加えることの訓練がなされて、次第に身に付けることが可能に構成したことを特徴としたシャドウピッチング用具である。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本考案は、野球の投球練習用具に関し、更に記述すると、ボールを持たずに投球練習をする時、投球動作の中で特に鍛えたいとされる、足、腰、肩、肘、手首、指先、の各部の強化鍛錬が一連の投球動作の中で、効果的に鍛えられていくことが可能な投球動作鍛錬用具に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、野球も盛んになり老若男女を問わず野球（ソフトボールも含む）をする人口が増加しているこの頃、特に少年野球の熱の高さには目を見張るものがある。そんな中、小学生の低学年の内からでも、正しい投球動作と訓練方法を身に付けることが、上達を早めることができるものと、いろいろと工夫され、種々様々な用具が開発されている。

20

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

以前は、シャドウピッチングとして、タオルを握って投球動作をする方法があったが、指がタオルを握っているため指先でボールを押込む動作ができず、“押込み力”を鍛えることのできる用具は存在せず、その開発が強く望まれていた。

本考案はこのような状況下、以下の目的を達成することを課題とする。即ち、本考案はボールを持たずに投球動作を練習するとき、足、腰、肩、肘、手首と共に指先でのボールの押込み力を強化鍛錬の練習ができる、優れたシャドウピッチング用具を提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0004】

本考案は前記課題を解決するため、下記のシャドウピッチング用具を提供する。

請求項 1 の考案は、利き腕の手にはめる手袋をはめ、該手袋の先端部に帯状のリボンを取付けて投球動作を繰返す毎に、前記手袋のリボンがなびき指先での押込み動作が身に付くように、練習の効果と継続性を向上させることを可能に構成したことを特徴とする、シャドウピッチング用具である。

【考案の効果】

【0005】

40

本考案によれば、ボールを持たずに投球練習（シャドウピッチング）をすることにより、足、腰、肩、肘、手首、と共に指先でのボールの押込み力が鍛えられ、練習を繰返すことで次第に身に付き、実際にボールを握って投げた時に、ボールに伸びが生じるように訓練ができるシャドウピッチング用具を提供することができるものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【0006】

本考案は、本考案は利き腕側の指先にはめる手袋と、該手袋の先端部に取付ける帯状のリボンから成り立っており、実施するための最良の形態を一実施例として図面を参照し、更に詳しく説明する。

【実施例】

50

【0007】

図1は本考案の一実施態様に係る、シャドウピッチング用具の全貌を示す斜視図である。

図2は本考案の一実施形態で、手の平側から見た手袋の斜視図。

図3は本考案の一実施形態の実施形態で、帯状のリボンの斜視図をそれぞれ示す。

【0008】

上記、シャドウピッチング用品は図1に示すように、利き腕側に嵌める手袋1、に投球時ボールの押込み力を鍛えたい、人差指1aと中指1bと投球動作後の脱げ防止用ベルト1cからなり、前記人差指1aと中指1bの先端部にリボン取付け用のわっか1dと、帯状のリボン2からなるシャドウピッチング用品である。

【0009】

この手袋1の人差指1aと中指1bに取付けた帯状のリボン2はシャドウピッチングの動作を繰返すごとに、風を切りなびく様に設定したもので、その長さは自由に選定することができるものである。また、前記脱げ防止用ベルトはボタンとかホックで代用してもよい。

【0010】

前記、シャドウピッチング用具は、図2に示したように、人差指1aと中指1bは指袋を残し、リボン取付け用の“わっか”2aを設ける。他の親指、小指、薬指、部は開放にすることで、前記人差指と中指に意識を集中させて、シャドウピッチングでの押込み練習ができ、その効果を高めることができるように設定したものである。

【0011】

以上、本考案の一実施形態について詳細に説明したが、本考案は上記実施の形態に限定されず、本考案の要旨を逸脱しない範囲で種々変更しても差し支えない。

【産業上の利用可能性】

【0012】

本考案の、シャドウピッチング用具は、利き腕側の手にはめる手袋と、該手袋の先端部に取付けた帯状のリボンで構成されており、大量生産が可能で安価に提供できるものである。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本考案の一実施態様に係る、シャドウピッチング用具の全貌を示した斜視図である。

【図2】本考案の一実施例の、シャドウピッチング用具の手袋の斜視図である。

【図3】本考案の一実施例の、帯状リボンの斜視図である。

【符号の説明】

【0016】

- 1 手袋
- 1 a 人差指部
- 1 b 中指部
- 1 c 脱げ防止用バンド
- 1 d リボン取付け用わっか
- 2 帯状リボン
- 2 a 取付け用ヒモ

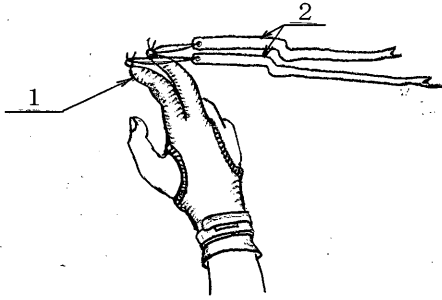
10

20

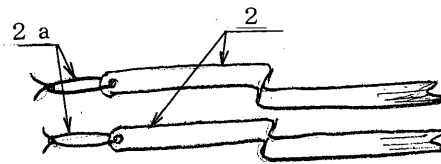
30

40

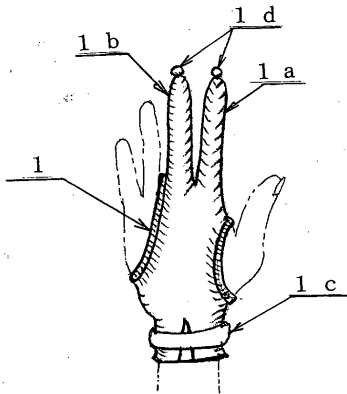
【図 1】



【図 3】



【図 2】



【手続補正書】

【提出日】平成20年11月5日(2008.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

野球のシャドウピッチングの練習用具であって、投球する時の利き腕側の手にはめる手袋で、該手袋の先端部分に帯状のリボンを取付けて投球動作を繰り返すことにより、前記手袋の先端部に取付けたリボンがなびき、投球時に指先でボールを押込み加速を加えることの訓練がなされて、次第に身に付けることが可能に構成したことを特徴としたシャドウピッチング用具。